

事業報告

<研修名>

外部人材を活用した地域プログラム開発事業 「県によるプログラム提示①」

<開催日時>

令和元年6月29日（土） 13:00~16:00

<参加人数>

各市町村からの参加者：25名（8市町村） / 体験活動に参加した小学生：38名

<研修趣旨>

地域学校協働活動を推進し、地域における子どもの学びの充実を図るため、民間企業・団体等を中心とした、多様な経験や技能をもつ外部団体を活用した、特色・魅力のある教育プログラムの開発・企画・提示や情報の提供を行う。

「おおいたを知る・おおいたを学ぶ・おおいたを体験する」ことのできる子ども向けの各種体験プログラムを外部団体と連携して開発・実施し、その様子を市町村「協育」ネットワーク関係者が参観することをおして、市町村へのプログラムの紹介・普及を行うとともに、外部団体と市町村との協議の場を設定することで、相互の協力体制構築の支援を行う。

<研修内容>

【第1部】 「ふるさと再発見！おおいたの『タカラモノ』体験 プログラム見学

実演団体

- おおいたの「歴史」：大分県立先哲史料館
- おおいたの「技」：別府市竹細工伝統産業会館
- おおいたの「温泉」：NPO 法人別府温泉地球博物館

子どもたちは、おおいたの特色や魅力を学ぶプログラムを2つ体験しました。

「歴史」は、古文書に触れ、古い記録からわかることについて考え、展示室を見学しながらクイズに答えました。「技」は、竹細工制作の実演を見て、実際に竹鈴作りを体験しました。「温泉」は、温泉に触ったり嗅いだり味わったりして、温泉の多様性について考えました。

【第2部】 実演団体との協議・意見交換

県立図書館からの事業説明の後、各団体から、実演したプログラムの説明や他の実演可能なプログラムの紹介、今後市町村で実施する際の手続き等について話がありました。終了後は、各団体と市町村担当者との間で、個別に相談したり意見交換をしたりする様子が見られました

<当日の様子(写真)>

【開会行事】



【第1部】ふるさと再発見！おおいたの『タカラモノ』体験
▼おおいたの『歴史』 一別府県立先哲史料館—



▼おおいたの『技』 一別府市竹細工伝統産業会館—



▼おおいたの『温泉』 一別府温泉地球博物館—



【第2部】実演団体と市町村との協議



<参加者感想>

【市町村参加者】

- 大変興味深く拝見した。参加している子どもたちがとても楽しそうだったので、素晴らしいと思った。知らないことを知ることの大切さ、おもしろさが子どもたちに伝わったと思う。
- 日頃見慣れたものに価値があり、知るきっかけをつくる必要を感じた。ふるさとを再発見する機会を設けたい。
- どのプログラムも実際に見て体験しながら学べるというところに子どもたちの興味を引き出す内容になっていたように思った。子どもたちが積極的に発言して楽しそうに取り組んでいる姿も印象的だった。
- 座学と体験の両方があることによって子どもたちも理解していたようでよかったと思う。実験を見たり、想像したりすることをおして、大分の魅力を認識してもらうことにつながっていたと思う。

【小学生】

- 昔の文字や絵が見れたし、和紙特有の材質がわかった。
- 竹を編むのが難しかったけど楽しかった。
- 温泉が少なくなっていることを知ってびっくりした。
- 大分県のことが楽しくわかってよかった。

【保護者】

- 小学校の授業時間と同じ45分間で、よくまとまった、わかりやすい講座だった。体験（温泉を触る・飲む、竹を編むなど）もあって、楽しそうだった。竹を割っていく様子は、まさに「技」だった。
- 大分ではあたりまえにある温泉のすごさを知ることができたり、竹細工を実際に作ることができたりしていい経験になったと思う。夢中にならばっていた！
- 技は、実際に竹からヒゴを作っているところは驚いた。先生の「竹愛」を感じた。温泉は、実験や体験、わかりやすいデータとお話がとてもおもしろかった。